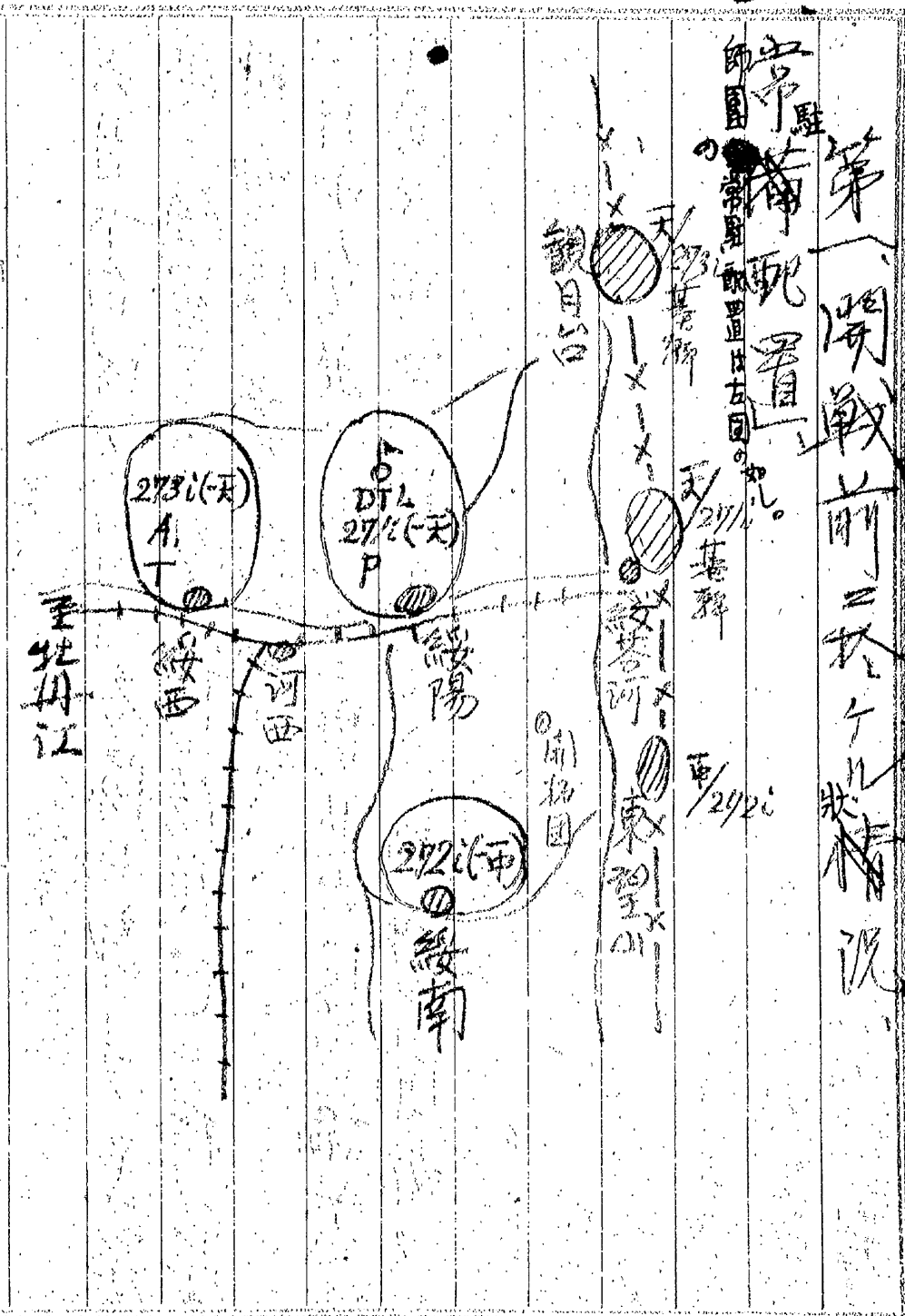


第三編 第三章

第七節

第百三十四師團の作戰

第一、綏南戰前之概況



師團の常駐地は左圖の如し。
 273 基幹
 272 基幹
 271 基幹
 270 基幹

| | | | | | |
|--|--|--|--|--|---|
| | | | | | <p>六月下旬頃迄降し各隊一部ヲ為ル駐 地ニ疎忽シ主力ハ移ラズ駐地ニ移ラズ 陣地構築ニ從事ス。</p> <p>七月中旬新ニ師團ニ捷進大隊ヲ編成マシ 下城子附近ニ駐屯セシメ訓練ヲ開始ス。</p> |
|--|--|--|--|--|---|

（柱ノテ）

二 作戰準備ノ狀況

手書

8060

師團ハ昭和三年二月下旬概不其編成ヲ完結ス
 高時人員特ニ裝備ニ於テ著ク不備ノ矣
 了リ之天時高ノ重大性ト國境炸因ノ重責トニ
 鑑ミ連ニ部隊ノ整頓ニ力ヲ注シ國結ノ結成ニ努
 ムルト共ニ萬難ヲ排リテ教育訓練ニ當進シ
 了リ之ガ五月頃綏芬河ノ觀月台ノ國境守備
 隊ノ任務ヲ新ニ師團ニ於テ継承スヘキ命ニ
 接シ在綏陽及ヒ綏西ノ各歩兵聯隊ヨリ各ニ
 約一大隊ヲ派遣シ從來ノ砲兵隊等ヲ併セ指
 揮シ之國境警備ニ任セシム。

次ニ師團ハ穆稜附近ニ陣地構築ノ命

2 築城

1774

陸城

6060

ヲ受テ所要ノ幹部以下ヲ直ニ陣地ノ
 偵察、工事ノ諸準備等ニ從事セシム。
 穆稜附近ニ於ケル防禦計画ハ軍ノ計画ニ
 リ、師団ハ軍内ニ於テ最モ重要正面を綏芬
 河、牡丹江街道ニ名ケル地区ヲ担当シ、正
 面約ニ十七ノ陣地線ノ構築ヲ命
 じラル。概要別紙要圖第一ノ如シ。
 日蘇開戦時ニ於ケル築城進捗ノ程度ハ、
 歩兵聯隊ハ第一線ニ於ケル要路ノ射撃並
 ニ交通施設ハ概シテ完成シ、主要ナル側
 防武器ハ中程度ノ掩蓋ヲ概シテ鉄條網
 ハ重要ナル地点ニ於テハ第一線ヲ完

1775

成之、射撃車壕ヲ概成ス。地下施設ハ稍々
 堅固ナル掩蔽部ヲ概成シ兵員ノ坐待
 機宜瘡、防毒等ニ概成シ遺骸ヲ平穩度ニ
 至ル。
 第一線各種壕壕間ノ諸施設並ニ其後方ニ於
 ケル各種陣地等ハ大部ハ工事ニ着手シ
 アリシ日尚ホ淺ク未ダ十分ト云ヒ難キ程度
 ナリ。
 主要ナル砲兵陣地、即チ師団砲兵並ニ配属
 セラレタル三十榴(二内)十五加(二内)十五榴(二内)
 ハ陣地施設ヲ概成ス。海戦ト共ニ師団ニ
 配属セラレタル中隊砲隊ハ一部ノ火砲ヲ

(牡丹江重砲兵聯隊(二十四榴))

交通之便

3 後方

陣内ニ搬入セルモ（駐屯地ハ穉後東方下城子）
 主力ハ戦斗ニ参加シ得スニテ終ル。
 師団戦斗司令所 其他第二線地域ニ於ケル
 工事ハ偵察ハ終ラセシメ、工事ヲ着手スル。
 代馬溝（指馬溝）ニ彈藥集積所ヲ設置セシ
 名長糧秣其ノ他ハ牡丹江ヨリ直接受領スル
 態勢ニアリタリ。
 國境陣地及ビ牡丹江軍司令部ト間ハ列
 車及ビ自動車ニヨリ隨時交通シ得ルモ、左
 列國少間ハ此地ヲ通スルモノハ徑ニヨリ昔年
 以来交通シ得ル程度、右列國トノ間ハ直
 接ノ交通路ナシ。

4

0912

教育訓練

陣地内交通ハ地形地物ヲ利用シテ主要
 尤地無クハ自動車其他ハ車馬ヲ概テ
 交通ニ得。
 通儀ハ正面ニ陣地ヲ設ルセリ至トシテ
 無線ヲ利用シテ一部ハ距離ニ有線ヲ用
 備成完了後ヨリ概テ五月萬難ヲ排シテ
 教育訓練ニ從事シ各例ノ戦ヲ行ハ概
 不其要領ヲ會得シ中隊教練ヲ概成ス。
 六月下旬以テ末ニ至力ヲ集中シテ
 二移駐シ陣地構築ノ傍ニ教育訓練ニ從
 事ス。防衛戦ヲニ於ケル戦ヲ行ハ陣地

1778

5. 情報

構築ノ進捗ニ伴ヒ現地ニ朝中教育ヲ
 實施スル事戰時概シ自儀シ以テ戰斗ニ得ル
 域ニ到ラズシ。
 對戰中肉迫及甚ノ要領ハ全負概ス其
 要領ヲ心得ス。
 國境陣地及ビ之ニ傳擊セル國境監視哨
 ニヨリ直接情報ノ收集ト特務機關ヨリ側
 面的ニ入手セル情報及ビ軍中ヨリ送付ラ
 ル情報ニヨリ概シ概シ失セズ情報ヲ入手シ
 アリタラズ七八月頃ニ於ケル緊迫セル情報ハ却テ
 上司ヨリ受領スル樂觀的情報ヨリ其ノ正確
 判断ニ甚シク動カズル事能ハシ樂觀視

5

0914

山口坂

スルコト屢ニナリ。結果ニ於テ厚敷判断断シテ誤
 シルハ故ニ速ニ橋トスル所ナリ。(附期ノ
 從事綴次東河川、觀月台ニ夫ニ歩兵約一隊附シ
 甚斂リシニ國境守備隊アリ。五月改之ヲ
 撤去シ其任務ヲ師團ニ継承セシメラル。
 耶加時、西地ニ大隊長ノ指揮シテ歩兵約
 一大隊ヲ甚斂トセシメテ之ヲ既置ニテ準備ニ
 任セシム。即チ午時陽ノ歩兵第二七二隊附ヨリ
 綴次河川ニ綴次ノ歩兵第三三隊附ヨリ觀
 月台ニ別ニ歩兵第一中隊ヲ總當トシテ第一
 二七二隊附ヨリ綴次河川守備隊南邊
 二邊擊シテ東岸山附シテ是ニ是ニ是

配

1780

備に任せらる。各々部隊に從來ノ砲兵部隊
 等より既属也之メタル。陣地ハ既設ノ堅固ナ
 ル事ノ永之陣地ニシテ情況ノ緊要ト伴ヒ人馬之整
 備ヲ嚴ニスルト共ニ日夜訓練ニ邁進シ戰平準備
 之遺憾ナキヲ期スルナリ。
 三編制 裝備ノ変更
 部隊ハ二月下旬一度編制ヲ完了セルモ之
 實裝備共ニ不十分ニシテ亦末逐次補給中
 之ニシテ下力幹部以下ノ素養良好ナラス。加
 フルニ^{個人}轉出入頻繁ニシテ部隊ノ團結
 教育訓練等ニ著シク支障ヲ來セリ。
 兵春 資材亦概極メテ不十分ニシテ待ニ耐

新本火器資料ノ不足

ハ數ヶ處に感トせん所ナリ。

第二、對蘇作戰實行期ノ狀況

蘇聯參戰當時ノ狀況

八月

第五

八月六日牡丹江軍司令部ニ於テ師團長會同
實施セラルル為、師團長八五日鶴後出發牡丹江
出張ス。當時國境方面ノ情報ハ稍、業、感
了。即チ七月中可成、觀測台守備隊正面ニ
於テ越境シ来レル蘇連、逃亡兵(下士官)多ク中突
了、了出身、入隊前、中學校教師、牡丹江特務

樺太ニテハ(一)言ハレバ日露戦遂ク開始セラル
 ハク戦争自リ逃避ノ目的ヲ以テ滿鉄ニ越境セ
 シトク自供ス。然レテ同官ヲ觀見名障免ニ於テ我カ
 監視員カ隣町所ニ連絡ニ行ク途中ソノ側ニ
 檢査セラルルモノ多ク行方不明トナル。更ニ八月三
 日日露戦爆林方面國境ニ於テソノ軍ヲ越境不法
 林奥ニ誘引分河ノ觀見ニ於テ蘇聯飛往機
 ノ越境飛行ニ等ノ事トナリ。事態ノ險悪化
 又思ハレタリ。

補遺
 補遺長官會同ニ引續キ高等司令部ニ滿
 實地ノ出立ヲ謀ル各等部長等軍司令部ニ

7

8160

八月七日
 出頭之日ヨリ演習ヲ實施セラル。中ノ
 二出頭ヲ命ゼラレ六日牡丹江軍司令部ニ
 演習第一日ノ研究ヲ終リ演習員ハ概ス
 二時隣所後省司令部ニ揚子江中ノ
 三於テ夜間作業ヲ實施ス二十三時
 既終ス

八月九日
 二時隣軍司令部ヨリ急使テ國境
 勢急變ノ急參謀長八面ニ軍司令部
 出頭ス八時命令ヲ受ク。

各師團參謀長等軍司令部ニ專人ス

1784

6

儿中更ニ情勢重大化ノ故ヲ以テ各師团长
 及連ニ集合スルヲ命ジリ。師团长ノ出頭ト
 共ニ軍参謀長ヨリ虎東方面守備隊
 警備ノ攻害ヲ受ケ戦斗中ノ其他國境諸所
 二於テ蘇軍ノ越境攻害ノ微アルヲ以テ直ニ夫
 在地ニ歸任スルヲ命ジテ傳達セラル。

即チ師团长ニ於テ大車用車ニ台ニ分乗。即時
 去来、穆稜ニ向テ歸還スル途ニ就テ。

本日敵機四機漸ク穆稜西方数軒ノ地ニ
 三到ル。機ノ遙ニ穆稜上空ニ蘇聯飛行機数
 機ノ飛行ヲ見ル。此機ノ機體銃若ク噴ク。

(當時既ニ穆稜師团长司令部ハ敵機ノ

対地攻車ヲ受ケル
 師團長以下直ニ司令部ニ入り殘留セルハ
 高級副官其他ヨリ夜半以來ノ情況ヲ聽
 取テ其ノ時師團長ハ直ニ工事中ノ陣地
 線ヲ占領シテ蘇軍ノ前進ヲ阻止シ之ヲ陣
 地附近ニ集滅スルノ決心ノ下ニ概テ尤如
 中慮ニ違フナク
 不發カノ河ノ觀月台西守備隊ニ既設陣
 地ヲ確保シテ極力敵ノ前進ヲ遅滞
 セシム
 六歩兵隊第七聯隊長安土大佐ヲ直ニ綏陽
 附近ニ派遣シ綏陽殘留各部隊ヲ率
 領スルニ命ジテ
 七二五

並に兵器彈藥等ノ移積地已ハノ移動
 且に國境地帯ノ残留邦人引揚
 ノ已署ヲササム。
 3. 在兵營(移積)人馬兵器等ヲ直ニ陣地
 ニ入ラシムルト共ニ陣地ノ補強ヲササム。
 4. 入院患者並ニ移積周辺残留邦人ノ
 引揚輸送ヲ續行セシム。高級別官ヲ駐
 派ス。
 5. 果公署、整齊隊、鐵道關係其他重要
 官公衙ノ代表筆者等ヲ司令部ニ召集
 也。又所要ノ已署ヲササム。
 6. 橋梁、鐵道、道路、阻絶、兵器、官舎、柴

公署其他主要建築物燒却し準備し
 十カ所。
 又牡丹江より彈藥、資材、糧食等を受領し
 準備せしむ。
 二、爾後の経過
 九月十四日、牡丹江長江橋を越え、
 可合嶺を出發、途中、中地区隊陣地を視
 察し、國山山嶺に前進す。
 各隊ハ平靜ノ輝ニテ急激ニ前進スルニ
 ノアリ。
 又、夜、牡丹江長江十五カ陣地ニ逐路攻め入
 國境陣地ハ敵ノ猛撃ヲ受テ了ルニ及

將兵ノ士氣極ニ下リ、
 敵ノ進攻情勢ノ凶ニテハ新報ナシ。
 月廿日
 正午頃、豫團長ハ司令部豫隊定地ニ
 一團山西麓ニ至ル。次ニ暮中豫ト共ニ一團山
 頂ニテ戦斗司令所ニテ地形ヲ大觀ス。
 中央軍ニテ第一線隊止面ハ、
 在リ戰場ノ大部ヲ直接自視シ得ルニ利ニ
 ハアリテ、全敵ノ態勢上、餘リニ元左ニ偏シ
 然カモ、豫隊想サレ、敵戦車ノ進路(我軍江
 街道ニ在リ地)ヨリ遠ク離ルノ不利アリ
 リ司令部、信置トシテハ適者ナク、中地

0924

已隊附近ニ移動スルヲ必要ト認メテ
 本日司令部ヲ南方ニ移動スルヲ命セ
 十五時頃軍司令部ヨリ相田参謀
 連絡ニ来ル
 國境陣地ノ對面ニ陸軍ノ敵ノ機
 車ヨリ砲火發射スルニ見テ是力陣地
 線附近ニ砲臺ノ敷設ニ着手スル事
 見タレリ
 十月七日
 師団司令官新井大佐
 高地ニ移動スル要圖
 参照

1790

國境陣地ニ於テハ依然猛烈ナル攻勢ヲ
 受ケテ元之守備隊ハ頑強ニ戦斗ヲ續行ス
 別ニ國境ヲ突破セル約一師團ト思ハレ敵機
~~機~~部隊ハ一部ヲ以テ綏陽ヲ攻勢(対日)ニ主力
 ハ二級隊下ナリ後方所ニ糧秣道及ヒ親
 月台一ノ城子道ヲ前進中ニニテ別ニ
 東寧ノ方向ヨリ糧秣ニ向ヒ前進中ニ有
 力な糧甲部隊ヲ見ルニ如シ。
 中地区隊方面ニ於テハ朝來敵地上部隊
 ノ攻勢ヲ受ケテ居ル。

十月十五日

昨日來敵ノ攻勢ヲ受ケテ中地区隊

11.

9260

正面三ツノ天ノ朝来戦車ノ律ノ敵ノ攻集
 ヲ受テ右及左地區隊止面ニテハ一部
 ノ敵ノ攻集ヲ受テ右ノ天ノ律ノ敵ノ攻集
 後名程ノ敵ナリ。
 夜ニテハ天ノ律ノ敵ノ攻集ノ敵ノ攻集
 列ノ下ニテハ天ノ律ノ敵ノ攻集ノ敵ノ攻集
 此日無線ノ連絡ヲ行フニ悪ク指揮ノ連絡
 意ノ如クナリ。
 十三日
 九野次中地區隊長ヨリ
 一隊旭ノ保持困難ナルヲ以テ隊隊ハ軍中
 以テ隊ノ守備ヲ放棄スルヲ以テ隊ノ守備

1792

10

連綿の想より之が最後ト云ハレトノ
 此北の報告事(季島下七官傳令)
 仰國長ノ事ノ意外ニ對馬中ノ事ヲ
 同航日十ノ知事ノ然カモ最モ重要ナク
 中地已降カ早ク至ル期ニカ如キ餘
 リニ天報爲性ノ定ニ事ヲ寧ク口不案細トシ
 地已降表ニ對シテ極力降地ヲ確保スル
 艱難ナル事ヲ早ク令令スル共ニ其
 執事司令所ヨリ中地区以直後ノ由豆山ニ所
 遣也云。

午後仰事長ハ由豆山戰事司令所ニ於テ
 是指揮官總領大佐ト令令常備ノ故情ヲ陳

取ルル共ニ申及ル地色防正面ノ教部ヲ
 直得指導ス。一博細三
 地形ノ因後ニ中地色防正面ノ教部ニ直得視察
 直得ナル事今言出テ之陣光ヲ教部ニ申送ニ切
 直ニ申ス。尤地色防正面ハ比勢時平靜ナリ
 亦甚長ハ参謀ヲ中地色防正面ノ下ニ派遣ス
 其斗指直ニノ援助ヲ付サズト無クニ成況止
 山多嶺多ハ其ノ中地色防正面ノ西ノ線ニ
 後退セザルハ今ノ事ナラズ。
 同夜申テ参謀ノ報告ニ言ハク中地色防正面ノ依
 然ノ軍陣地ニ於テ後勢ナク敵ノ攻撃ヲ拒止シ
 了ルル事直得ノ利用ニ一節ノ陣地ノ整理

シ害地ノ善。
 乙ノ日、日没ニ至ルテ、中地区隊は西ヨリ
 侵入セル敵隊、舟江街ニシテ、次
 西進セル也。其ノ大部ハ我十五榴大隊ノ在
 り。有熟ク射撃ノ為、其ノ大半ハ甚破、擱
 坐若シク及轉退避セ、突被西進セシモ、
 其ノ一部ハ逃カス。夜半、帰來セル我隊、
 舟江ノ敵隊ニシテ、程後西端ヨリ、代馬浦
 ニ至ル。舟江路附近ニ、爆弾ヲ擱坐セル敵
 車ノ數、百十數台ヲ自棄セリト。尚一部、我
 車中ノ銃死、激將校ノ所持シ、アリシ地圖書、
 類等、老年少押收シ来リ。

0860

我射真ノ様ニ効果アリハ直捷自棄セシ
 十ニモ尙及ニヨル成果ハ必スニ十人カナラサリトモ
 一カノ百ノ十數台ノ揚坐也至ノ執果ハ確信
 十中モ相商ノ大打撃ヲ由テ工得タルコトハ確実
 ナリ。

四月
 昨日ノ稍ノ閑靜ナリニ在り地包隊正面ニ
 アリテ本隊素敵ノ行動逐次監視ナリ
 狙撃約一隊ト思ハレテ敵ノ攻真ヲ受
 敵ハ機甲部隊ヲ以テ中地区隊正面ヲ
 突破シ直路ヲ丹江ニ向ヒ進ニ突進シ
 企圖セシトモ我中地区隊ノ頑強ナル

1796

撥抗特ニ側面ヨリニ五十五榴大隊
 通也其對敵車馬ノ爲ニ其ノ所
 意ノ如ク十三天ヲ斬リニ獲車馬由
 已隊方面ヨリニ昌地等ニニ折向
 面自右及車ヲ企圖セリ十九日
 年所以來該方面ノ勢斗ニ逐次激烈
 下也。
 乙ノ夜中地區隊ハ小豆山以西
 其丹江附近ヲ突破西進セントスル
 車ノ行勢ハ依然本日迄無事ニ
 我砲兵時集ノ爲相老ノ積害ヲ受ケ
 又

一、如之。
 右地区隊出陣ノ敵ハ極大ニ微弱ニシテ大
 古圧力ナキモ、如ク縁後ヲ控ルル間
 々々但し無テ線通信意加クナク詳
 細不明ナリ。
 本陣
 朝暮老犬隊正面戦車如次激刺下ル
 沙園長ハ中地区隊ノ後退ニ伴ヒ到陣可
 令折ラフ口高地ニ他ノ部隊又ハ決シ九時
 頃ハ豆山ヲ出陣ス、沙園長ハ豆山西
 側高地ニ前哨ヲシテ止ル案如、小豆山
 二向ヒ口ケト砲ヲ急襲シ後々ナク為リ

少豆山ハ須臾ニ至テ 殆シト 禿山トテ 九龍ノ
 糧射車ヲ受テ
 中六時頃 山口高地中腹ニ到ル。其國
 中地已隊ノ後退並ニ之ニ伴フ十五梅隊也
 二對元敵隊ノ直進及新等ニヨリ 戦
 勢我ニ稍有利ナラス。其
 當時無線通信ハ殆シト不通トナリ 軍トハ
 勿論 師國內各地區隊トノ通信殆シト不能
 トナル。
 師團長ハ中地區隊正面ノ戦事ハ不利ニ
 之ヲ敵ノ地再江方向ニ之ヲ前進 意ノ儘ト
 ナリ加フルニ 無線通信ノ不能ト爲 當時

適切ナル指揮困難トシタルニヨリ訓令ヲ以テ尤シク命ス。

訓令ノ要旨

師団ハ自今ハ全負五碎ヲ期シ夜暗ヲ利用シテ斬込戦ヲ及覆シ逐次敵ノ戦カヲ破摧セントス。

之ガ為メ各隊ハ概ネ尤ノ要領ニヨリ執拗ニ攻東ヲ旨見施ス。

① 本訓令攻東目標ハ主トシテ牡丹江街道ニ在ル地区ノ敵

② 街道以北ノ部隊ハ南方ニ之ヲ斬込突破、街道以南ノ部隊ハ北方ニ斬込突破

夫之及討側高地帯に進出シテ昏間ハ極
 力敵ニ庶敵企圖秘匿ニ努メ翌夜同
 月心及轉手後之ヲ及覆スベシ。
 ③攻東実行ニ方リテハ隣接部隊相互ニ
 連轡示リ密ニシテ嚴ニ相東ラ戒ムヘシ。
 ④代馬溝以西ノ地已ハノ行動ハ之ヲ禁ズ。
 ⑤本訓令ニヨリ斬込戦ノ第一日ハ十五日
 ト予丁定ス
 師団司令ノ部ニ於テ是ノ師団連長以下不用口
 可整理ニテ輕壯隊ニ身ヲ固メ最後ノ夜ヲ
 休息ニ就ク。
 日没時頃軍司令ノ部ヨリ特使將校連

絡ニ来レルモ既ニ数日ヲ経過シテ了リ新
 情報ヲ得ス。十日以テ前ノ命令ヲ印刷
 送付ニ来レルモ。
 夜ニ入リ多ク戰場ニ帯テ稍々平靜トナルルモ
 時ニ遠近ニ銃砲声斷續ス
 十五日
 朝来由ビ戰場ニ帶テ銃砲声絶エズ。口々
 ト砲ノ砲声漸ク耳ニ馴レシメテ
 于テ本夜ノ斬込第一陣ニ遺憾ナク活躍
 期ニ夫レ雖備リ居ル。
 過日來連日無線通信ノ復旧ノ為種々苦
 心ヲ用テ通信隊長八二〇時頃突如東京放

送ラレキモノヲ把握ス然カモ停戦ノ大命ニ
 関スルモノハ如キ内容ニ致為キ之ヲ極秘ノ裡ニ
 参謀長ニ報告ス。
 参謀長ハ一般士氣ニ及ボス影況ヲ顧慮
 乙國ヲ通信隊長ニ口外ヲ禁スルト共ニ師団長
 ニ報告、更ニ軍長送リ確認スル為ニ通信所
 ニ到リ尔後ノ放送ヲ聞キ、蘇側ノ宣傳
 ニアラスヤトシテ確認ス。
 師団長ハ熟考ノ上、停戦ノ大命ノ眞実
 ナリトセバ今後ニ於テ、タトヒ一兵タリトモ貴重
 ナル犠牲ヲ出スカコトアリテハ詢ニ申請ナキ次
 第ナリトシ、本夜ノ斬込之ヲ時延期ニシテ

17

8360

明朝更ニ無線ヨリ之ヲ確認シタル後
 午後ノ行動ヲ決スヘク夫處置ス。
 處道ノ概要
 各隊ニ停戦ノ大命ニ関スル概要ヲ傳
 達ス
 師團ハ敵ト離脱シテ先ヅ牡丹江南方地
 区ニ移進ス。午後ノ行動ヲ決ス
 各隊ハ適時戰場ヲ離脱シ大命ニ
 準據シ行動セシム
 十六日
 拂曉ト共ニ無線機ヨリ停戦ノ大命
 ヲ再確認シ所在ノ部隊ヲ(八)(二)(要圖)

1804

附近ニ赤井家次集結セシム。
 十七日、十八日
 前日來遠次集結セル中、九地区隊
 一部、甲團砲兵隊、工兵隊ノ大部、
 一隊、其他一部、シ併セ先ヅ(ホ)附
 近ニ前進。同地附近ニ伏撃待機。日
 没後行動シ開始ス。本夜踏シ利用
 シテ本道ヲ南方ニ突破スヘク数梯固
 キナリテ前進。十八日三時過キ其先頭
 ヲ以テ本道ヲ突破シ開始ス。其時本
 道ハ敵ノ戦車、トラック等續々西進中
 ニシテ、同隊ヲ利用シテ予部隊

0940

八日、夜、街道南方地区に宿営せし。一宿
 新防が往の途に後十九、二十、二十一日、三日間
 中地を敵トノ接續し断る山地ヲ行軍
 二十日は大花嶺溝東南約十五里
 附近に宿営す。
 土民ノ言ニヨレハ當時概ニ宿営す安ら

八日、夜、街道南方地区に宿営せし。一宿
 新防が往の途に後十九、二十、二十一日、三日間
 中地を敵トノ接續し断る山地ヲ行軍
 二十日は大花嶺溝東南約十五里
 附近に宿営す。
 土民ノ言ニヨレハ當時概ニ宿営す安ら

1806

蘇州^軍 二 白領セシ大花臉溝ニ數日^所以
 来^軍 庫^日 蘇^軍 戰^車 出^没 シアリ。各^種 情
 勢ヲ綜^合 判^断 シテ徒^ニ 時^日 ヲ遷^延 ス
 ハ却^テ 策^ヲ 得^ズ シト^モ 昨^ラ 甚^ク 知^リ 事
 未^レ 蘇^州 下^降 戰^ニ 及^ズ 其^ヲ 持^守 守^固 松
 之^ル 決^ス 事^ル 也。
 二十^日 夜^派 遣^セ ル將^校 伍^候 (駐^止 身^候) 二
 組^ニ 一^組 蘇^州 ノ交^渉 二 惣^{タル} 準^備 事^ト 云^ク
 ノ文^書 持^行 セシメ^テ 直^接 交^渉 事^ト 申^出 始^メ
 ス。
 二十^日 天^明 下^共 三^蘇 州^軍 使^我 等^皆 終^ニ
 事^ル 交^渉 事^ト 終^事 本^ニ 上^旨 申^出 山^ヲ

0942

降りて武裝解除ニ應ズルハク支持纏り、
 寧ろ安東北方高地脚ニ於テ靜肅裡ニ武
 裝ヲ解テ除ス。
 其夜 寧ろ安東側 牡丹江畔ニ宿營ス。
 二十三、二十四日徒歩行軍ニヨリ二十六日、東
 京城南方ニ七軒久田美田坊團ノ集團
 部ヲ落ニ到リ收容所ニ生活ニ入ル。
 戰場離脱ニ動リ以テ國主力ト行動ヲ共
 ニ得テ下リテ部前ニ二三本軍日行行程
 上テ概シテ主力ノ行動セリ地域ヲ通過
 八更ニ南方ニ退避シテ直接武裝解除
 ヲ十七日ニ行ハシメ如シ。

三ノ間、即、因、長、ハ、三、五、日、朝、部、所、下、別、律、
レ、テ、蘇、側、ノ、指、示、ニ、ヨリ、杜、丹、江、ニ、列、ル、(別、官、一、
共、ニ、)

第三、其他ノ状況

下、在、省、邦、人、ヲ、採、取、國、籍、族、出、況、
在、留、邦、人、中、婦、女、子、ノ、相、等、數、ハ、六、七、
月、頃、ハ、倍、勢、ニ、ヨリ、國、境、地、帯、ヲ、離、レ、
新、京、哈、爾、賓、等、地、或、ハ、日、本、ニ、歸、國、ス、ル、
等、ノ、下、下、リ、之、毛、同、族、特、殊、留、レ、リ、シ、モ、ノ、
尚、多、數、ヲ、有、ス、
是、等、殊、留、邦、人、ノ、大、部、モ、同、族、ト、共、ニ、多、シ、

0944

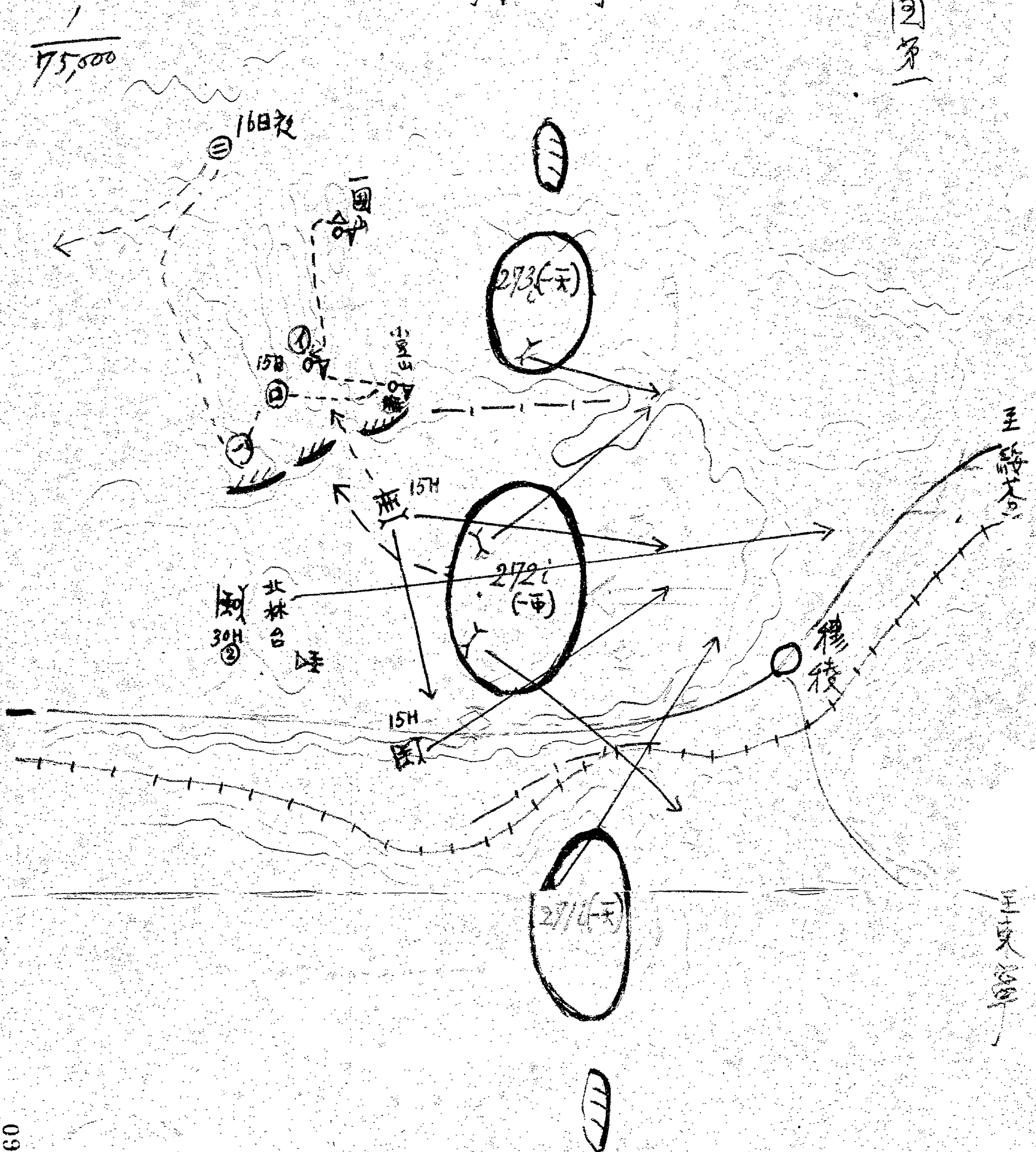
久列車ニ依リ之ニ帰シタルモノ又軍ノ自
 勤車或ハ後方ニ多ク國境地帯ヲ離
 脱直接戦火ニ捲キ込マレシモノハ一部
 僅少ノモノニ留カス。
 但し東部ノ最北最終避難列車カ不幸
 ニシテ河ノ西西方地帯ニ於テ敵戦車ノ付来
 ヲ受テ進行不能トナリ爲ニ若干ノ犠牲ヲ
 去シテ後退時ニテ山地ヲ披テ避難
 セルト雖モ河ノ並流部新人ノ相手を加
 守時隊陣地ニ入りテ戦死ニ参加シ居
 ニ壯烈死スル者多ク又自勝南方ノ一
 間松岡村ハ避難ニ過シテ少カク又犠牲ヲ

| | | | | | |
|-------------------------|----------|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------|
| <p>生じ名元人知。詢中使復之據正其說</p> | <p>中</p> | <p>夫滿洲國政府機關及警察狀況</p> | <p>同新小共之郵要幹部司之部之招致</p> | <p>聯絡之連絡也之午後復請是合此</p> | <p>諸狀況不</p> |
|-------------------------|----------|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------|

移後西方陣地戰鬥經過要圖

於八月八日三時中

第一圖

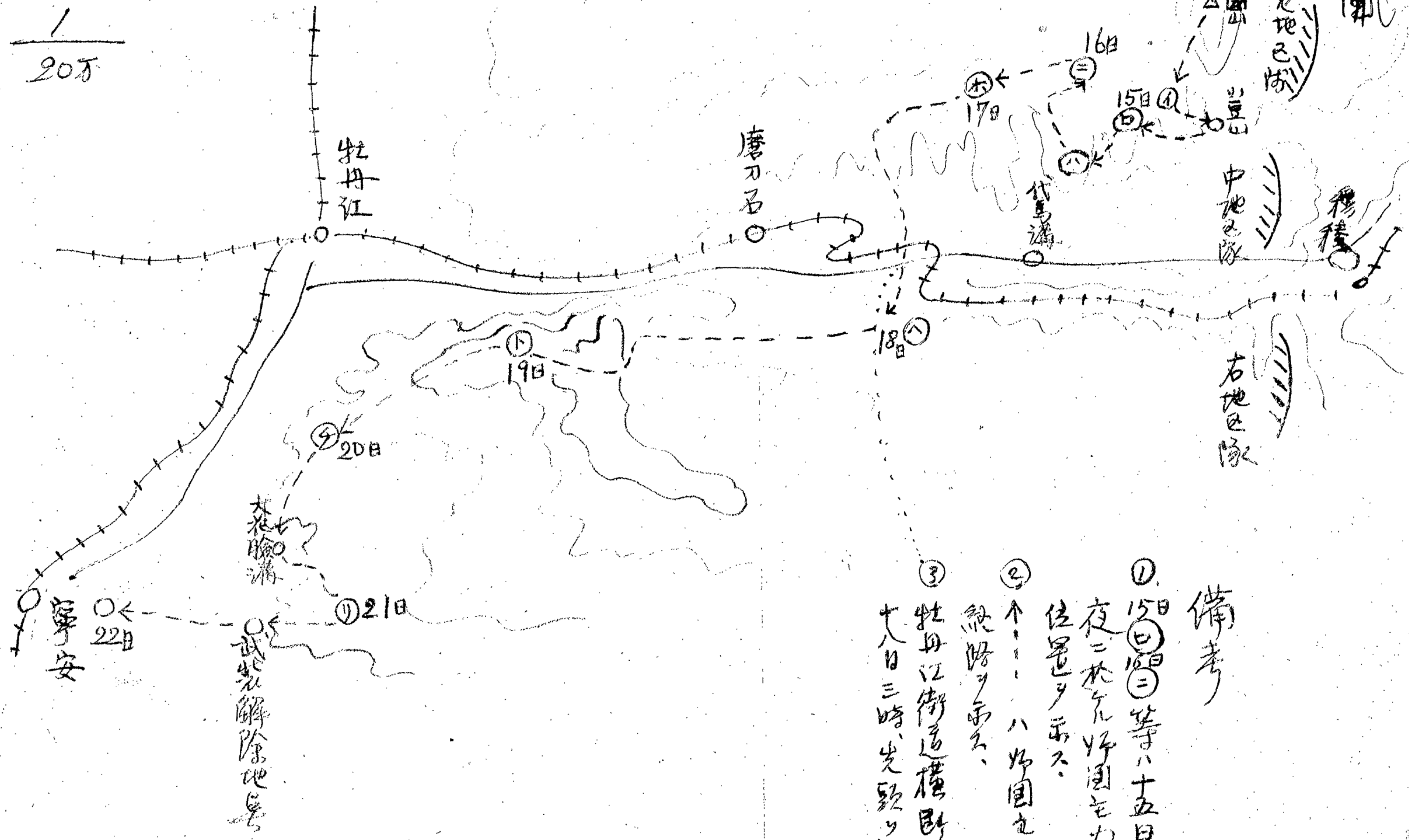


0946

② 軍進路に至る解除装束の行程

1813

1/20万



備考

① 15日(16日)等ハ十五日夜十時
夜ニ於テ先鋒團主力ノ宿營
位置ニ示ス。

② ↑、ハ右地区隊ノ行動
線路ヲ示ス。

③ 牡丹江街道横野ノ時ハ
十八日三時、先鋒ヲ以テ通過

0947